

海外生活 エッセー

パリ事務所

「色々」なゴミ収集箱 ~封鎖されたパリのゴミ分別事情~

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 松本 航 (奈良県派遣)

その地域に住んでみないと分からないことの1つが、家庭ゴミの分別ではないでしょうか。今回新型コロナウイルス流行で外出禁止令下におけるパリのゴミ分別収集について生活者目線から紹介します。

実は、外出禁止令の下でもこれまで通り市のゴミ収集は行われていました。パリの日常生活で目にする分別用のゴミ収集箱 (une poubelle^(注1)) は統一規格で、その蓋の色は「緑」、「黄」、「白」、と3種類あります。「緑」は燃えるゴミの収集用です。ゴミ出しの際、日本では白や透明のゴミ袋が指定されている地域もありますが、パリでは一般に黒いゴミ袋が使用されています。個人情報に気にする住民が多いためと思われます。^(注2) 「黄」はリサイクル用の収集箱で、プラスチック製品、紙類、金属類、また小型電化製品なども、小分けにする必要はなく、同じ箱で収集します。ガラスびんは資源ゴミですが、「黄」ではなく「白」がガラスびん専用の収集箱になっています。さらに試験的ですが、一部では「茶」の収集箱も用意され、生ゴミをこの箱で収集することで、肥料等に再利用される仕組みになっています。こうした収集箱は建物毎に設置され、共同住宅の場合は管理人が収集日に建物前に出し、収集車が収集してまわる仕組みになっています。



収集車と色分けされた収集箱

また歩道には、「白」の収集箱と同じく、巨大なガラス製品専用の収集箱や不要になった本や洋服等をリサイクルするための



歩道に設置されているガラス製品収集箱収集箱も設置されています。

もっともゴミ収集は行われているものの、感染防止のため分別・リサイクルセンターが一時閉鎖されて、燃えるゴミと資源ゴミが一緒に処理され、また、生ゴミや衣服のリサイクルは中止されました^(注3)。

パリのゴミの分別は、色が統一されているため外国人でも分かりやすく、資源ゴミも細かい分類が不要で、直接、収集箱に入れるため、煩わしさを感じません。



カテゴリーに分かれている (出典: パリ市 HP)

(注1) 19世紀末、感染症予防等のため、このゴミ収集方式を定めたセーヌ県知事ウジェーヌ・ペベルに由来。

(注2) 公共施設のゴミ袋は透明の物が使用されている。

(注3) 封鎖中でも分別の習慣を維持するため、従来の分別を推奨。同センターの稼働と生ゴミ回収は5月11日から段階的に再開し、25日には通常通りとなった。